

『最後の線香車を訪ねる』

～記憶に残したい熊野の産業～

“里は一反田の線香屋のくるま 誰をまつやらくるくと”

(新鹿民謡 熊野市史より)



湊の車と呼ばれた線香工場

熊野市新鹿町に線香車とよばれた線香水車の工場があります。杉葉やタブノキの皮、葉を使い、水車による動力で線香の原料となる杉粉を製造していました。現在、新鹿町に住む鈴木祥嗣さんがこの工場を所有していますが、お宅の覚書に残っている記録では昭和43年に杉粉を生産したのが最後となっています。

この新鹿の工場は「湊の車」とよばれていました。川の横に建てられたこの工場の中に入ってみると、杉葉を粉に搗くための石臼が12個ずつ二列になり、合計24個設置されています。直径5.54mある水車の動力で歯車がかみ合い、杵24本が順々に可動するように作られています。工場の横に平らな広場があり、草が覆った所々に石が埋まっているのが見られます。ここは全面が石で敷き詰められており、当時山から運びおろした杉葉を一面に広げて干す場所に使われていました。

また「湊の車」には水車に高さを合わせて石積みされた水路から山水が落ち、周辺の水田と共有するなど自然の恩恵を受けて暮らしてきた人々の知恵と工夫が見られます。また水車の軸を支えるために積み上げられた石垣や、これらを作った人の労力を考えると、杉粉生産は新鹿の主要産業として栄えていたことが伺えます。



草の下は杉葉を干すために石が敷きつめてある

熊野市、南牟婁郡に14ヶ所以上あった線香車は時代の移り変わりに伴い、今では見られなくなりました。「湊の車」は三重県内で残っている唯一のものですが、水車も破損した状態で建物の老朽化も激しく、国道建設のためにまもなく取り壊されることになりました。

かつて盛んだった産業が熊野から姿を消したのはまだそれほど遠い昔ではありません。先人が自然と共生した産業や文化を私達の記憶に残しておきたいものです。

実施要領

■日時

平成20年6月11日（水）雨天の場合は平成20年6月18日（水）に延期

■集合

熊野市新鹿町 海水浴場駐車場（参加される方に地図をお送りします）

■場所

熊野市新鹿町 湊の車（線香水車工場跡）

■行程

9：30 集合、ミーティング後現地へ移動
9：45 現地着、鈴木さんの説明と見学後、座談会
12：00 ミーティング後、解散
（多少時間が前後することがあります。ご了解下さい。）

■募集人数

7名様

（お申し込み多数の場合は、5月26日（月）に抽選で決めさせていただきます。

お二人以上で一緒に参加ご希望の場合は、グループで一人として抽選します。）

■お申込締め切り

5月25日（日）必着

■参加費

1,900円（ガイド料、国内旅行・賠償保険代、諸経費）

■持ち物

歩きやすい靴、靴帽子、飲み物、軍手など

■ご案内

鈴木祥嗣氏（熊野市新鹿町）

■ご注意

この企画は紀南ツアーデザインセンターが地域づくりのために作成した学習プログラムに、希望者が自己責任において任意で参加していただくものです。万一の怪我や事故などに対する補償は、加入する国内旅行保険の範囲内で行いますので、ご了解の上ご参加ください。

◇お申込み方法 [（参加申込書はこちら⇒）](#)

郵便、ファックスまたはEメールでお申込みください。

ご参加をお待ちしています。